



醸 芳 解



扁額「醸芳」の醸芳解

この「醸芳」とは、過ぐる明治9年6月、明治天皇東北ご巡幸の砌、半田銀山にご臨幸になられた際に供奉された内各顧問官木戸孝允公のご揮毫になるもので古く来た半田小学校当時より扁額として玄関に掲げていたものである。

この「醸芳」の語源は淮南王劉安著淮南子に「以相嘔咐醞釀而成育群生」とあり、「醸」は、酒をかもすこと、転じて物を熟成するに用い「芳」はかおりある花のことであるが転じて賢者能士に用いられる。

これを総合して解すると賢者能士を養成することあたかも米麴に和して酒を熟成するように、盛んに多くの人材を育成する。と解することができる。